

報告番号	甲 保 第 2 号 乙 保
論 文 内 容 要 旨	
氏 名	千葉 進一
題 目	Clinical correlates associated with basic ability of social life in schizophrenia inpatients (入院中の統合失調症患者の基本的な社会生活能力に関連した臨床要因)
<p>I. はじめに</p> <p>先行研究では、統合失調症患者の社会生活機能には、陽性症状や陰性症状、抑うつ症状などの精神症状だけでなく、認知機能障害も影響を及ぼすとされている。さらに、認知機能障害は、陽性症状や陰性症状よりも、社会生活機能に強い影響を及ぼすとされ、認知機能の中でも特に、注意や記憶、遂行機能が社会生活機能の低下に関係していると報告されている。他方、認知機能障害は社会生活機能に影響していないと報告している研究もある。</p> <p>近年、精神科病院から早期に退院し地域で生活することは、リハビリテーションの視点からも重要であると考えられている。たとえ患者に、まだ若干の精神症状があるとしても、退院できると判断されれば、通常は退院し地域での生活に移る。患者が退院後に地域で生活していくためには、基本的な社会生活機能を獲得している必要がある。よって、精神医療者は入院中から患者の社会生活機能が向上するよう援助する必要がある。入院中の患者の社会生活機能に影響している要因を明確にすることは重要な研究課題である。</p> <p>よって、本研究の目的は、入院中の統合失調症患者において、退院の指標となる基本的な社会生活機能に関連する臨床要因を明らかにすることである。</p> <p>II. 研究方法</p> <p>対象は、DSM-IVで統合失調症と診断された50人の入院患者(53.08±12.08歳)であった。社会生活機能はRehabilitation Evaluation of Hall and Baker(以下、REHAB)、認知機能はBrief Assessment of Cognition in Schizophrenia(以下、BACS)、臨床症状はPositive and Negative Syndrome Scale(以下、PANSS)とCalgary Depression Scale for Schizophrenia(以下、CDSS)、薬原性錐体外路症状はDrug-Induced Extrapyramidal Symptoms Scale(以下、DIEPSS)を用いて評価した。回収したデータはSPSSを用いて記述統計、およびスピアマンの順位相関分析を行った。倫理的配慮については、対象者に口頭と文書で調査目的・方法、匿名性と守秘の保証、参加や中途拒否の権利、公表方法などを説明し書面にて同意を得て行った。本研究は徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号:1631)。</p> <p>III. 結果</p> <p>REHABのdeviant behavior scoreは、PANSSのpositive syndrome score(<math>r = 0.55, p &lt; 0.01</math>)と有意な相関を示し、REHABのgeneral behavior scoreは、PANSS positive syndrome score(<math>r = 0.28, p &lt; 0.05</math>)、PANSS negative syndrome score(<math>r = 0.53, p &lt; 0.01</math>)およびDIEPSS score(<math>r = 0.43, p &lt; 0.01</math>)と有意な相関を示した。しかし、REHABとBACSのスコアには有意な相関は認められなかった。</p> <p>IV. 考察</p> <p>これらの結果より、基本的な社会生活機能に認知機能は影響を及ぼしていないことが示唆され、認知機能が社会生活機能に影響していないとする先行研究(Rabinowitz J et al, 2012; Heslegrave RJ et al,</p>	

1997; Ertugrul A et al, 2002)を支持する結果と考えられた。また、基本的な社会生活機能には陰性症状と薬原性錐体外路症状が関連していることが明らかになった。対象者は入院中の統合失調症患者であったため、PANSSスコアが比較的高く、DIEPSSスコアも抗精神病薬の高用量使用のため高かったと考えられる。これらの影響によって、陰性症状と薬原性錐体外路症状が、認知機能よりも、基本的な社会生活機能に関連があるという結果につながった可能性が考えられた。これらの結果より、統合失調症の入院患者において、基本的な社会生活機能の低下は、認知機能よりも陰性症状と薬原性錐体外路症状がより重要な要因であることが示唆された。

#### V. 結論

本研究により、統合失調症入院患者の低い基本的な社会生活機能に関連する重要な要因は、認知機能よりも陰性症状や薬原性錐体外路症状であることが明らかになった。これにより、入院中の統合失調症患者が、退院後に社会復帰を目指すためには、認知機能の強化を目指すよりも、陰性症状や錐体外路症状の改善が優先されることが示唆された。